

法政大学大学院  
入学試験問題用紙

試験科目	キャリアデザイン学研究科 キャリアデザイン学専攻 修士課程《一般》	2026年度 秋季	試験時間
論述問題			90分

**【注意】** 解答は、別紙の解答用紙に記入すること。

次の2問のうちから1問を選択して、選択した問題番号に○をつけ、1,000字程度で論述しなさい。

問1. キャリア形成には、自分の意思や努力といった内的・自律的な要因が関係するが、実際には、家庭や生活の事情、勤務地や勤務時間の条件、組織の制度や文化、偶然の出来事などの外的・偶発的な要因が、より大きく方向性を左右する場合が少なくない。このような要因は、本人の計画や意欲とは無関係に、キャリアの選択肢や機会を広げたり制限したりする。キャリアは、このような多様な要因の相互作用のなかで形成される。このことを踏まえて、以下の設問に答えなさい。

**【設問】**

1. 中期キャリア層（おおむね30～40歳代）がキャリアの転機や再設計において直面することの多い外的・偶発的要因と個人内的要因の双方を挙げなさい。さらに、それぞれがキャリア形成に及ぼす影響を、両者の相互関係を踏まえて説明しなさい。
2. これらの課題に対して、有効な考え方や支援の工夫を、具体的に提案しなさい。

以上の設問1・2について、合わせて1,000字程度で論述すること。

法政大学大学院  
入学試験問題用紙

試験科目	キャリアデザイン学研究科 キャリアデザイン学専攻 修士課程《一般》	2026年度 秋季	試験時間
論述問題			90分

**【注意】** 解答は、別紙の解答用紙に記入すること。

問 2. 以下の文章は、就職みらい研究所が刊行した『就職白書 2025』(p.29) からの抜粋（出題上の都合により一部改変）である。

企業のキャリア形成支援プログラムの実施時期と学生の参加状況、そして、2026年卒採用では企業の面接開始時期などがさらに早まる見込みであることなどから、多くの学生にとっては、卒業年次前年の夏季からキャリア形成支援プログラムが始まり、秋季以降もタイプ1・2などが継続的に実施されている中、早ければ秋季・冬季から採用選考の面接が始まる状況にあると言える。加えて、キャリア形成支援プログラムへの参加が採用選考への参加条件になっているケースもあることから、本来であれば、キャリア形成支援プログラムでの経験を基に自身の興味・関心や重視したい価値観などについて内省を深め、その上で選社基準を整理するなどして就職活動の準備を進めていくはずが、その準備期間を十分に取れないまま採用選考に臨むケースが生じていることが懸念される。

この記述を踏まえた上で、以下の設問に答えなさい。

**【設問】**

1. 企業のキャリア形成支援プログラムと採用活動の接続が強まることによって、若年層の初期キャリア形成に最も大きな影響を与える点を1つ挙げなさい。また、その影響が大学生の将来にとってなぜ重要な問題であるか、あなたの考えを述べなさい。
2. このような状況が今後も続くとした場合、大学生が主体的にキャリアを形成し、納得感のある進路選択を行うために必要な支援とは何か。具体的な支援の内容を示し、それが重要だと考える理由を述べなさい。

なお、上記でいう「キャリア形成支援プログラム」とは、インターンシップをはじめ、オープン・カンパニー、キャリア教育を含むキャリア形成支援に係る取り組みの総称を指す。また、「タイプ1」「タイプ2」とは、2022年に改正された文部科学省・厚生労働省・経済産業省の三省合意（正式名称：「インターンシップを始めとする学生のキャリア形成支援に係る取組の推進に当たっての基本的考え方」）で使われている分類で、具体的には以下の通りである。

タイプ1：オープン・カンパニー（企業や業界の情報を提供する説明会やイベントなど）

タイプ2：キャリア教育（大学の授業や、企業による教育的なプログラムなど）

以上の設問1・2について、合わせて1,000字程度で論述すること。